

医薬品市場構成に関する国際比較

○福本 大悟¹, 鈴木 岳之¹ (¹慶應大薬)

【目的】日本を含む主要各国（米英独仏）の医薬品市場に関して比較分析を行い、各国の医薬品市場の売上構成を明らかにすることで、その特性を踏まえた医薬品開発並びに販売戦略構築の一助となる示唆を与えることを目的とする。

【方法】日米英独仏の各医薬新市場における 2014 年の年間売上金額上位 100 位に該当する医薬品を解析対象とした。市場構成の比較は上位 100 位における売上金額に関する Gini 係数並びに Herfindahl-Hirschman 指数を指標として用いた。各医薬品の売上金額は QuintilesIMS より取得した。

【結果】日本の売上金額上位 100 位における Gini 係数は米英独仏に比較し低い値を示した。これは日本医薬品市場における売上の差異が医薬品間で小さいことを意味する。また薬効薬理分類別の市場占有度を Herfindahl-Hirschman 指数を用いて算出した結果、日本は米英独仏に比較し低い値を示した。これは、日本医薬品は特定の疾病領域への依存度が低いことを意味する。また米英市場では売上金額上位 100 位に該当する医薬品の価格は上昇する傾向が示された。一方で、独仏市場では統計的に有意な価格上昇傾向は示されなかった。

【考察】本研究では、医薬品市場の構成に焦点を当て解析を行った。上記の結果から日本医薬品市場は各医薬品の収益に差異が少ないことが示唆された。医療財政が圧迫したなか画期的な医薬品開発を促進する上ではメリハリのある薬価設定が必要であるとされるなか本研究結果は、他国に比較し画期的な医薬品開発に対するインセンティブが低く、逆にその他の医薬品の収益を担保する構造が日本において存在する可能性が示された。